

# 街路樹につく主な毛虫

	毛虫の種類	発生する主な樹種
無毒	<p>○モンクロシャチホコガ（幼虫）</p> <p>市内で頻繁に目にする毛虫です。土中のマユで越冬し、7～8月に成虫が羽化します。成虫は葉の裏側に卵塊を生み、孵化幼虫は赤褐色で群生、成長すると紫黒色になり、白い毛を束生します。 老齢幼虫は、木を降りて浅い土中でマユを作ります。 見た目がグロテスクなだけでなく、たくさん道を歩いていますので、毛虫が嫌いな方の中には、「存在するだけで害」とおっしゃる方もいるかもしれませんが、モンクロシャチホコには毒がなく、人間には全く<b>無害</b>です。</p> 	サクラ
有毒	<p>○イラガ（幼虫）</p> <p>市内での発生事例はほぼありませんが、幼虫は7～8月から10月ころにわたって見られます。庭にいる有毒の毛虫としては、ドクガの仲間と並んで刺されることの多い毛虫です。小ぶりながら、写真のようにからだに多くのトゲを持った肉質の突起があり、このトゲは中空で体内の毒腺につながっていて、刺すと同時に相手に毒液を注射します。 ドクガの仲間は毒針毛の毒物質による“かゆい毛虫”の代表ですが、イラガの仲間は毒液の注入による“痛い毛虫”の代表で、刺されると、電撃的な痛みが走ります。刺すのは幼虫だけで、成虫などは無毒で、また、刺されたあともドクガの仲間よりは回復が早いのですが、刺された瞬間の痛みは二度と忘れられないほどです。</p> 	サクラ ケヤキ
有毒	<p>○チャドクガ（幼虫）</p> <p>市内では年に数回発生しており、幼虫は4月から10月にかけて年2回発生します。若齢のうちは一箇所に固まっていることが多く、数十匹が頭を揃えて並び、葉を食べています。ひとつの枝の葉を食べつくすとまるで誰かが指揮でもしているかのように一列に並んで隣の枝に移動していき、成長するにしたがって木全体に拡散します。 刺されるといつまでも激しいかゆみが残り、それが2～3週間も続きます。また、刺されたときの痛みはほとんどなく、あとからヒリヒリした痛みと強いかゆみでそれとわかるのでやっかいです。何度も刺されるとアレルギー症状を起こし、全身に症状が見られることもあります。 毛は幼虫が脱いだ皮（脱皮殻）にも長い間残りますので、冬に樹を剪定しても刺されることがあります。</p> 	ツバキ サザンカ